拝啓　今年も早や7月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、今はむくげやさるすべりの花が咲いています。

今回から、小西芳之助先生の『ガラテヤ人への手紙講解説教』からの引用をはじめます。小西先生は、ガラテヤ書は、「ロマ書を補う書として欠くべからざる書である」と述べられています。また、今回のエンカウンターの12頁には、次のように書かれています。

「私は、パウロ、ルッター、内村鑑三を先生とする

パウロは、人々に源泉を持たず、人を媒介としていないと言いました。私は、神とキリストと聖霊を源泉・根源としていますが、媒介として内村鑑三をあげたいと思います。私は、パウロ、ルッター、内村鑑三のこの3人の先生を先生とし、黒崎幸吉、金沢常雄を先輩とし、そして友人として石館守三一人をもって、私は満足します。私は、この教会において、一人も福音を信じる人が出なくても、私は満足です。「偉大なる生涯」という映画は、紀元2000年を目当てとして制作されたと聞いていますが、私の福音も紀元2000年において時期を待ちたいと思います。」

小西先生の言い方を真似れば、私の場合、「私は、パウロ、内村鑑三、小西芳之助、南原繁を先生とする」と言えると思います。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』7月2日

「道元の言葉

先日、私はあの有名な禅の一派の元祖、道元の次のような言葉を読んで、大変感動を受けた。

「多くのことについて博学になるのは難しい。それを捨てよ。唯一事について博学たらんことをつとめよ。それをよく勉強せよ。一行を堅忍を持ってなせ。」

今後、私は聖書だけを勉強する。聖書に書かれてある福音を伝道すること、この一事を務めたい。」

新渡戸稲造先生『一日一言』7月18日

「母の愛ほど神の愛に近い愛はない。幾度歳を重ねても、幼き時の清き心に呼び返し、恩愛の真味を与うるものは母の愛である。憂き事しきりに来たり、神も仏も我を棄つると嘆く時も、母の心ばかりは疑えぬ。親を思う心にまさる親心とやら、この心を汲むを乞う孝と言う。仁愛の発起点は即ちこれ。」

松下幸之助先生『道をひらく』「花のように」

「むつかしいことかもしれないが、自分の仕事に誇りを持ち、自分の働きに意義を感じるならば、わが身の処し方もおのずからに見いだされてくるであろう。

どんな世の中になっても、慌てず、うろたえず、淡々として社会への奉仕を心がけてゆ

こう。その姿自体が、人びとにとってすでに大きな励ましとなり、憩いとなるのである。花のように。泉のように。そこにわれわれの喜びもある。」

内村鑑三先生『続一日一生』6 月 13 日

「日本国の如き不信国においては、キリスト教の信仰を維持する事だけが、伝道的に見て一大事業である。…一たび受けし信仰を勇敢に頑強に守り通す事だけが大なる伝道事業である。日本国において純福音を信じ通すことは至難の業である。その事は、一たび信仰に入りし者にして、千人はわれらの左に倒れ、万人はわれらの右に倒れしによって分かる。ことに教会又は外国宣教師等、外来の援助に頼ることなくして、キリスト教の信仰を守り通すことは至難の業である。そうしてこのことをなしえて、我らは大事業をなし得し事について神に感謝すべきである。…あえて他に伝動事業を企つるの必要はない。内に対しては明白に、外に対しては独立に、一生信仰を守り通して、われらはそれだけにて善き伝道師たり得たのである。」

バークレー先生「ウイリアム・バークレイの一日一章」(5 月 31 日)

「死者は語る
両親は死んでも今なお語っている。
何年も前に両親は死んだが、今日もなお自分の人生に最大の影響を与えているのは彼らである、と考えている人はたくさんいる。…親が残してくれたこういうものを、我々もまた子供たちに残していけるように、神に祈らずにはいられない。
無くなった多くの教師が今なお語っている。…良き教師は、我々の生にあって不死の存在となっているといってよい。
多くの場合、友達は死んでもなお語っている。偉大な友人の影響は死を超越したものである。
多くの伝道者は死んだのちもなお語る。
人間はすべて自分の一部を残してこの世を去ってゆくものである。人は死んでも語りつづける。ねがわくは、我らがこの世を去る時に、イエス・キリストのために語り続ける何か良きものを、残していくことができますように。」

カウマン先生『山頂を目指して』7 月 18 日

「エーブラハム・リンカーン
国民が最大の困難に直面し
そのために備えられた人を要した時に
神と自然は、多くの人々の指導者として
彼を形成していった。…

殉教者に等しい性質を持つ彼の名を
大空に書き記し、
輝かしい、汚れのない
卓越した不朽の名として
記録しなければならない」
エーブラハム・リンカーンについて述べたこの詩を読んだ時、南原繁先生についても同じことが言えると思い、替え歌を作りました。それを『南原繁の生涯』の本文の最後に掲載しました。今その詩を読み返してみましたが違和感はありませんでした。替え歌であるため、原稿を提出する時迷いましたが、掲載してよかったと思いました。

本誌の読者の佐藤昭夫さんから、小西先生のこれまでに出版された聖書講解説教集を、エンカウンターでも読めるようにして欲しいという依頼を受けて、出版社の横濱大氣堂及びウエブサイトを管理して頂いている兵庫県加古川市の船倉昌之さんに問い合わせたところ、出来るという事でしたので、エンカウンターの 9 月号から、おおむね 3 カ月ごとに 1 冊ずつ、説教集をエンカウンターに掲載し、スマホ、パソコンで説教集が読めるように致します。私はもともと小西先生の説教集を全集の形で残しておきたいという気持ちを持っていましたが、この試みは、全集に代わるものとなるかも知れないと思っています。

新型コロナは、第 5 類という扱いになりましたが、最近の電車の中とかスーパーでは、まだマスクをされている人の方が多いようです。しばらくは、マスク、手洗い、うがいなどは、必要と思われるときに実行されて、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

7 月 22 日

山口周三

エンカウンターの読者各位